

中国が戦術弾道ミサイルの開発を加速

漢和防務評論 20130625

(訳者コメント)

中国の戦術弾道ミサイル開発についての漢和防務評論記事の概要を紹介いたします。

中国軍人は米軍の介入を阻止するためには、沖縄及びグアムの米軍基地をたたく必要があると考えているようです。そのため DF21C 及び DF16 型戦術弾道ミサイルの開発を急いでいるようです。

中国は戦術弾道ミサイルの開発を急いでいる。

中国軍内の論文から、中国が DF21C 型及び DF-16 型弾道ミサイルを開発する目的が明らかになった。これら論文の論旨は以下の通り：ニューデリ、沖縄、及びグアム島を攻撃するため、射程 800 KM から 3000 KM の戦術弾道ミサイルを重点的に開発すべきである。このミサイルは、命中精度を高く、破壊力を大きくしなければならない。米軍の第一線兵力を弱化するため、沖縄及びグアムの米軍兵站施設及び戦役予備部隊を撃破しなければならないと。

DF21C 開発における技術的課題は、有機繊維材料、推進剤技術等の開発、12 度以上の柔軟性ある小型ノズル技術の開発である。これは、DF21C が一定程度の TMD 回避能力が求められていることを意味するようだ。

同論文は、開発する巡航ミサイルに関して、射程 3000 KM 以上でグアム島を攻撃できるよう、空中発射巡航ミサイルの場合はハワイを攻撃できるよう求めている。

しかし中国沿岸からハワイまでの距離は 8100 KM もあり、たとえ中国の爆撃機 H6K が射程 3000 KM の巡航ミサイルを携帯したとしても、爆撃機 H6K は片道 5000 KM 以上飛行しなければならない。どこかで空中給油が必要である。このような戦術要求は無謀だ。

論文は、空対地ミサイルについて、射程 300 KM のスタンドオフ・ミサイルを急いで開発しなければならないと主張している。これは主として米空母艦隊の防空の要であるイージスミサイル駆逐艦、巡洋艦を攻撃するためだ。論文は特に攻撃速度がマッハ 3 乃至 6 の高超音速、長距離通常弾頭ミサイル開発の重要性を指摘している。これらのミサイルは通常パルスロケット・エンジンを装備するとしているがこれは疑問。(出典：漢和防務評論 20130625) (以上)